

海外情報



■リバティー・ファイバース社(米国) 破産保護申請後に新会社設立

米国唯一のレーヨンステープルファイバーメーカー、リバティー・ファイバース社の株主は、破産審査裁判所から同社資産を約1,900万ドルで買い戻し、新会社を設立した。

新会社シルヴァ・アクイジション社は、スイスの証券会社、ファベスト社が60%を、残りをリバティー社の経営陣が所有する。

リバティー社は、03年11月に2,000万~2,300万ドルの負債を抱え、破産保護を申請していた。新会社は10~12人の生産・メンテナンス従業員を新規雇用し、全従業員は約360人となる。

今後6ヵ月で300万ドルを投じて発電所を改良し、給紙ラインを設置するなど設備を改良していく。04年第2四半期の収益は6,000万ドルを見込んでいる。

リバティー・ファイバース社はこれまで生産能力の80~85%で操業を行ってきたが、今後、新会社は数百万ポンド増産する計画である。同社事業の約85%が不織布関連である。

■タイコ・インターナショナル社(米国)

テキサス州の紙おむつ工場を閉鎖

大手サニタリーメーカー、タイコ・インターナショナル社は、テキサス州の

ベビー用紙おむつ・トレーニングパンツ生産工場を05年春に閉鎖し、ジョージア州とメキシコへ設備を移転することを発表した。

22年間続いていたテキサス州の工場は、10~12ヵ月以内に閉鎖され、250人の従業員が解雇される。生産を行っている4ラインはジョージア州へ、3ラインはメキシコへ移転される。ジョージア州の工場では、107人の増員が行われ、従業員が506人となる。

04年1月、タイコ社は、株主にサニタリー製品工場5ヵ所のうち1ヵ所を閉鎖し、11ヵ所の販売拠点を4ヵ所に縮小すると発表した。なお、同社は、ベビー用・大人用紙おむつ、女性用サニタリー製品の03年度収益が10億1,400万ドルに上り、自らプライベートレーベルの最大手サニタリー製品メーカーと位置付けていた。

■タイコ・ヘルスケア(メキシコ)

アブソルメックス社を告訴

タイコ・ヘルスケア・リテール・グループは、メキシコの紙おむつメーカー、アブソルメックス社が、タイコ社の特許権を侵害した不正取引を行っているとして、米国国際貿易委員会と連邦地方裁判所に告訴した。

タイコ社は、貿易委員会への訴状で、アブソルメックス社が米国の3つの特許権(第5,275,590号、第5,403,301号、第4,892,528号)を侵害した紙おむつを米国で販売していると主張し、アブソルメックス社に対して紙おむつの輸入と発注行為の中止を命じるよう委員会に要求している。

委員会は行政法判事に対し、この件に関する調査を命じた。委員会は45日以内に、数ヵ月におよぶ調査期間を設定する。タイコ社によれば、アブソルメックス社は特許権を侵害した紙おむつをHEブット・グローサリー・ストアでH-E-Bドライフィット・スプレーム、

H-E-B ウルトラというブランドで販売しているという。

■フロイデンベルク・グループ(ドイツ)

不織布部門の売上が前年比4%増

フロイデンベルク・グループは、フロイデンベルク・ノンウーヴンズ社、フロイデンベルク・ポリテックス社を含む不織布部門の03年売上が、前年比4%増の9億6,000万ユーロを達成した。

同グループは世界最大の不織布メーカー。ポリテックス社はルーフィング用ポリエステル不織布の大手メーカーで、03年売上が前年比5%増の1億6,330万ユーロとなった。しかし、より規模の大きいノンウーヴンズ社の売上は、前年比5.8%減の7億9,640万ユーロとなった。

同社は、この原因を低迷を続ける芯地事業の売上が11%減となったためとしている。また、テクニカル不織布も同様に売上が低迷している。

一方、同グループが一部出資している日本バイリーンは、中国の投資家との合弁により、中国の自動車用フィルターコンバーター、長春オートフィルター社を買収した。この合弁企業は、4万㎡の工場を建設し、国内市場向けに最新フィルターを生産していく。

■ハイジーニカ社(ポーランド)

公募増資で女性用衛材市場に投資

ポーランドのサニタリーメーカー、ハイジーニカ社は、急成長している女性用サニタリー市場への投資に向けて、ワルシャワ証券取引所で500万ドル以上の公募増資を行う。同社はキャッシュフローの約60%を機械類の新規購入に当て、残りを運転資金、債務削減、大規模設備への移転に割り当てる計画である。

今年、同社はすでにセルロース・コンバーティング・エクイップメント社製サニタリーナプキンラインを発注済みだが、さらにダイアテック社とパンティライナーラインの導入について交

渉中である。

年末までに、セルロース社製超薄型ナブキンラインを稼働開始する計画である。なお、同社は03年に最初のパンティライナーラインを購入している。

同社は、以前から生産していたベビー用紙おむつよりも利益率の高い女性用サニタリー製品生産への移行を計画している。現在、同社は、ベビー用紙おむつのラインを2ライン操業している。

■スパンテック・インダストリーズ社 (イスラエル)

増資で米国工場設備を発注

イスラエルの水流絡合機器メーカー、NR スパンテック・インダストリーズ社は、米国工場用に設備を発注し、テルアビブ証券取引所で新規公募による増資を完了したと発表した。

同社によれば、設備のほぼすべてが発注済みで、ラインは非常に革新的な特注設計となった。工場候補地については、現在交渉中だが、05年の夏には稼働開始する計画である。

米国工場の拡張に関しては、4月末に完了した親会社の増資により、資金が供給された。株式の20%が3種類販売され、約2,400万ドルの増資を行い、資本金は4,860万ドルとなった。

イスラエル工場では、03年売上が5,000万ドルで、従業員は135名。同社は、シャラグ・ノンウーヴンズ社、ニッサン・メディカル・インダストリーズ社が50%ずつ出資する持株会社、ニルコ社が所有している。なお、スパンテック社は、イスラエルでスパンレースラインを3ライン操業しており、年間生産能力は1万4,000～1万6,000tである。

■ソフトボンド社 (アルゼンチン)

第3のスパンボンドラインを設置

アルゼンチンのスパンボンドメーカー、ソフトボンド社は、第3のラインを購入し、04年末の稼働を目指していると発表した。

■産業利用が進むフランスの麻

フランス産の亜麻は、高級衣類やシーツ用として世界各国に輸出されている一方、産業界からも注目され始めている。

パリの北西に位置するノルマンディー地方のセヌ・マリタイム県の小都市イヴト近郊では、設立されて数年の企業、テクニラン社が亜麻繊維を用いて自動車ドアのインナーパネルの加工を行っている(写真)。

自動車部品メーカーは、自動車のエコ対策、リサイクルを進めるに当たって天然繊維を高く評価している。例えば、環境に優しく、衝突事故時のリスクの少ない素材として、自動車の内装材に用いられている。

テクニラン社では本格的な製品開発に2年を要した。完成したのはポリ



亜麻繊維から作られたインナーパネル

プロピレン繊維と亜麻繊維を50%ずつ混合した複合素材。混合比は60対40や70対30とすることもできる。

テクニラン社では2000年7月に生産ラインを新設、専用の加熱圧着機を導入した。02年度に同社が加工した亜麻繊維は800tに達し、現在では1日当たり2,000台の車にインナーパネルを供給している。

新ラインは、既存2ラインと同様、イタリアのSTPインピアンティ社製で、年間約3,800tを生産する。これにより同社の生産能力は1万2,000tに増強される。既存2ラインはSSまたはSSS構造だが、詳細は不明。新ラインは、既存ラインと同様に、国内・海外市場向けのポリプロピレン不織布を生産する。現在、売上の70%が国内顧客向け。売上は、耐久不織布とディスプレイ不織布が50/50。

同社は同族経営で、従業員は64人。ブエノスアイレスの本社に加え、チリの販売、倉庫設備を担当する部門を有する。同社はこの増設により、南米でトップ3のスパンボンドメーカーとなる。

なお、ブラジルでは、フィテサ社が03年11月に800万ドルを投じ、スパンボンドラインに第2ビームを追加し、メルトブローンラインも新規購入している。

■プロヴィデンシア社、ファイバーテックス社 (ブラジル・マレーシア)

スパンボンドラインを新設

ブラジルのプロヴィデンシア社とデ

ンマークのファイバーテックス社は、05年にポリプロピレン不織布の新ラインの稼働を開始する。

プロヴィデンシア社は3.2m幅のライフエンハウザー社製ラインを購入し、ブラジルのクリチバ工場に設置する。新ラインは05年第1四半期に商業生産を開始する計画である。新ラインの設置により、同社のスパンボンド生産能力は5万t/年を超えることになる。

一方、ファイバーテックス社は、05年7月に4.2m幅のSMMSラインをマレーシアで稼働開始する。新ラインは、同社にとって第2の4.2m幅4ビーム付ライフエンハウザー社製ライン。同社は、03年7月に1ライン目の商業生産を開始している。

新ラインの年間生産能力は1万5,000tで、既存ラインより3,000t上回る。新ラインで生産した製品はアジア、その他の地域で販売される見込み。1万㎡のマレーシア工場は、3,600万ユーロを投じて建設された。